# 建設防災 ボラレティアニュース 第 39 号

# 平成22年度建設局 初動対応訓練の実施

例年行われている建設局初動対応訓練が、2 月4日(金)午前7時30分から12時まで、建設局本庁及び各建設事務所、公園緑地事務所の連携のもとに実施され、防災ボランティア協会からも多数の会員が訓練に参加しました。

今年度の訓練のポイントは、①情報連絡訓練の強化、②役割分担の明確化、③支援班訓練の充実となっていました。

訓練は午前7時に東京湾北部を震源とする大規模地震(マグニチュード7.3、震度6弱以上)が発生し、都内で広域的な被害が発生しているとの想定に基づき、7時30分からの徒歩による参集訓練、9時過ぎからの本部運営訓練が行われました。

訓練には、防災ボランティア協会会員は、参集 訓練から15名、その後の本部運営訓練から50名 が加わり、合計65名が参加しました。

訓練参加者数

古 沙 武		うち参集訓練
事務所	訓練参加者数	参加者数
一建班	5名	_
二建班	5名	_
三建班	8名	4名
四建班	6名	_
五建班	4名	_
六建班	5名	1名
西建班	4名	_
南東建班	9名	3名
南西建班	4名	3名
北南建班	5名	1名
北北建班	3名	_
東部公園班	3名	_
西部公園班	4名	3名
合計	65名	15名

当日の天気は晴れで、朝は少し寒さが残っていましたが、次第に気温も上がり、最高気温 13 度と3 月下旬並みの暖かさとなり、訓練日和となりました。

訓練に参加された会員は、徒歩参集訓練、点 検出動訓練や情報連絡訓練等に熱心に取り組み、 最後に支援班が炊き出したアルファ米の炊き込 みご飯をご馳走になりました。

大規模地震はいつ発生するか予測困難ですが、 日頃の訓練により災害発生時における対応能力 を磨いておくことが大切と感じました。

お忙しい中、事務所との調整に努められたリーダーの皆さま、訓練にご参加いただきました会員の方々、そして一緒に活動いただいた事務所の皆様方に、心より感謝申し上げます。

担当理事 本間 弘

### 一建班の報告

平成22年度建設局初動対応訓練が、平成23年2月4日(金)に実施された。

一建班においては、新井、藤田、堀中、平田、佐野の会員5名がフェーズⅡから参加し、支援班・応急対策班に分かれ事務所の皆さんとともに対応訓練に取り組んだ。



所長、副所長と参加会員

厳寒が続いていたが、当日は久しぶりにやや 寒さが緩み応急対応班として現場に直行する者 にとってはありがたい気候であった。

第一建設事務所は、管内に皇居・国会及び大手町、丸の内等、日本の政治経済の中心部を抱えるとともに、中央区・港区においては大規模な再開発事業が行われており、震災時対応には関係機関との連携が最も重要な区域のひとつである。

当日の管内被害想定箇所は、4箇所であり応 急対策班を一班・二班に分け訓練が開始された。 被害想定箇所は

- ①新大橋通り(入船橋北側下り車線:新富町ランプ出口など複雑な車線構成交差点)
- ②晴海通り(勝鬨橋西側橋詰下り車線)
- ③昭和通り(銀座一丁目下り車線:立体トンネル 付近)
- ④新大橋通り(本願寺前上り車線)であった。

その中で、④新大橋通り本願寺前については、消防庁からの要請に基づく警戒対応であった。

直近には京橋築地小学校があり関係機関との連携として管内状況を適切に把握した想定訓練となっていた。今後とも関係機関との緊密な連携を構築していくとのことであった。

②晴海通り(勝鬨橋橋詰)の想定箇所は大型 車混入率が高く、なおかつ、築地市場への出入り 車両が多い箇所であり災害時には、勝どき・晴海 地区への緊急輸送に大打撃が生じる可能性が想 定される。早期に、市場移転・環状2号線の整備 が必要であると改めて痛感した。

訓練参加者は総勢36名であり、11時には全員が参集することができた。レスナビ携帯操作訓練、作戦班と応急班との連携、本部長への的確な報告、他事務所からの参集など様々な訓練項目を完了した後、川合所長より訓練終了の指示・講評があり訓練は終了した。

震災時にも同様な行動が必要とされているが、 日頃から危機管理に強い意識を持ち引き続き訓練を積むことの重要性を改めて認識した。

その後、支援班が炊いたアルファー米に、鯖の 塩焼きが付いた昼食を参加者全員で頂きお開き となった。訓練参加の皆さんご苦労様でした。

> まさき 一建班 佐野 正生

#### 西建班報告

2月4日(金)の寒く晴れた日、「建設局初動対応訓練」には、私達西建防災ボランティアとして、

松本、岸、稗田、伊藤の4名で午前9時から参加した。



参加会員

事務所では、8時に事務局から5箇所の被害想定箇所を示され、点検班へ点検出動指示がなされ、道路災害の情報収集システム(レスキュー・ナビゲーション)を活用するなど、被災地からの情報連絡訓練を実施した。



西建事務所本部

私達が訓練を参加したのは、点検班が現地から帰所し、事務所本部の机の上に被害状況図面への図示、被害状況報告等の取りまとめの段階からであった。

点検出動訓練の内容は、被災箇所として道路 災害3箇所と斜面災害1箇所及び護岸災害1箇 所であった。被害内容は橋梁取り付け部に道路 陥没、斜面崩落で緊急輸送道路が不通、河川は 護岸損壊などであった。幸い人身被害が無かっ たということで、応急対策班は応急復旧の指示を 行うと共に、緊急輸送道路に関して、警視庁や消 防庁と連絡を取った。

11 時に建設局本部へ2回目の職員参集状況

を報告したが、その参加人数は、職員 44 名と防災ボランティア 4 名の 48 名であった。

西建の池田所長は、11 時 25 分にテレビ会議 に出席した後で、本日の訓練について講評した。

「訓練は、日頃からの積み重ねが大事である。 最近では鹿児島県と宮崎県境の新燃岳の噴火の ように、いつ災害が起きるかわからない。三宅島 の噴火も同じであったが、その時、災害現場でア タフタしないよう、常に皆様の頭の中でトレーニン グをしておいて頂き、災害に備え適切な活動が出 来るようにしておいて下さい」とのことでした。

最後に、参加職員数名と私達は非常用食糧を食べながら、建設局防災ボランティアの活動や今回の訓練内容などについて、普段出来ない現役職員とのコミュニケーションを図れたことが大変よかったと思っている。これがボランティア活動の大きな楽しみの一つでもあるから。

西建班 伊藤 浩之

### その他事務所の参集会員



三建班参加会員



南東建本部の参加会員

# 東北地方太平洋沖地震 (東北関東大震災)

### たった一夜の帰宅難民体験記

今回の巨大地震で亡くなられた方々をはじめ、 大きな被害に遭われた方々に謹んでお見舞い申 し上げます。

3月11日(金)14時46分のM9.0発生時からの私の体験を報告します。それは、大宮付近でのゴルフ中に発生し、経験したことのない大きな、また何度も襲う揺れのため、地面に座り込んでしまいした。

携帯電話では家族に連絡が出来ず(メールでは連絡可能であったが、それも私の場合は出来ず)、不安の中でゴルフ場を16時半過ぎに出て最寄り駅に行くも電車は動かず、路線バスを見つけて大宮駅を目指すが道路大混雑のため途中から徒歩で駅にたどり着く。

幸いにも、駅近くに県の財団法人の施設があり、 そこが開放されることを偶然見つけました。そこの 暖房付きのホール(500席)の椅子で、翌朝9時 半近くの電車運行まで過ごしました。これが、実際 の被災地等では、暖房はもちろん食料も不足、ま た避難所生活期間も全く先が見えないような状況 に比べ、些細な経験ではあるが何点か考えること がありました。

まず、携帯依存社会の中での情報の連絡手段 と把握です。携帯での連絡を試みるうちに、まもな く電池切れ。携帯同士、携帯と自宅パソコンとの 連絡を活用するとともにラジオや充電器の常時携 帯の必要性を痛感。

次に、一時開放施設の事前把握です。自宅や会社等常時の生活範囲での把握はもちろんです。 しかし、出先等では困難です。今回、翌日の新聞に、ひとつ先のさいたま新都心駅前の施設で 5,000人が毛布を貸与され一夜を過ごした記事がありました。

情報等の違いで駅構内、私の経験した仮の施設、あらかじめ行政が決めている施設では、例え 一夜にしても環境は大きく異なることになる。

更には、非常時に我々協会員は、どこまで役割を担えるか。家族や自宅の安全の確認、交通機関の運行状況や電気・水の供給など大きな不安定要素のある中で基本的に何ができるか。

今回、建設局職員のうち何割が帰宅出来たか、 翌日の出勤状況はどうであったか等々、検証結 果をお聞きし当協会との連携のあり方を再確認する必要があるものと考えます。

被害発生時には、今回のようにその日のうちに、 また遅くとも翌日の電車の運行再開は全く期待出 来ない。条件が良かった今回でも相当な混乱が あったものと推察する。

最後に、この世に絶対的なものはない。阪神淡路での高速道路の崩壊、今回の深刻な原発事故、これらの施設の安全神話は、もろくも崩れてしまった。大規模な津波堤防もあってないものと同じで、その背後のまちは一瞬のうちに飲み込まれてしまった。これらを目の当たりにして、人が作り出す施設のもろさがはっきりとわかった。

これからのまちづくりは、悲惨かつ凄惨な今回 の経験を生かし、自然に挑戦しないかたちで行わ なければならないことを痛感した。一日でも早い 地震の沈静化とともに、被害に遭われた方々の心 身および通常生活へのご快復をお祈りいたしま す。(昨15日は、静岡東部で震度6強、今日は千 葉県で5弱の地震発生の中で記す。)

理事 堀中 逸

### 帰宅半難民体験記

初動対応訓練が終わって1ヶ月余りの、3月11日14:46に三陸沖でM8.4の国内観測史上最大の地震(後に気象庁からM8.8、M9.0~訂正発表)が発生、さらに15:15には茨城県沖でM7.4、16:29に再び三陸沖でM6.6の大地震が連発した。

東京は震源から離れており、震度も5強と岩手・宮城・福島・茨城県と比べて小さく、一部の建物天井等の崩落が発生して死傷者も出たが、目立った道路・橋梁等の公共施設の損傷は無かったようである。

私はこの日、新小岩駅前でこの地震に遭遇した。地面が激しく揺れ、立っているのがやっとで、 周辺のビルがぐらぐら揺れているのが良く見え、 周りからは悲鳴も上がっていた。最初の地震後、 直ぐに家へ連絡したが電話が繋がらずメールも送 れなかったので、暫くその場に居たところへ、2回 目の地震の大きな揺れを感じたが、最初より建物 の揺れ方が少し小さいと思われた。電車も止まっ ており、様子を見るために近くで休憩することにして、建物の中に入っていたところ3回目の地震が 発生、再び駅前広場の真中に避難した。揺れが 収まった後、建物に戻りJRの復旧を待っていたが、 IR、私鉄、地下鉄は全線運休となった。

JRの運転再開が無いことが分かったので、自宅まで約25~30Kmを徒歩で帰ることにして、腹拵えを済ませ18:00に出発し、蔵前橋通りを都心(西)方向へ向かう。停電は無く信号も正常に点灯していたが車道は殆ど動かない大渋滞であり、歩道には千葉(東)方向へ既に大勢の人歩いており、その波に逆らって歩くのは大変であった。

その上、脇道から蔵前通りに入ろうとする車と置き看板や自転車等が歩行通路を塞ぎ、混雑を一層増していた。

20:00 頃に秋葉原駅付近を通過して湯島で国 道17号に出て北上、本郷で川越街道に入り後楽 園方面へ向かった。富久警察署前を左折して目 白通りの大曲に 21:00 頃、ここからは練馬方面へ の一本道、狭い歩道に多勢の帰宅者がいて、歩 きずらかった、地図を手にした人も多くいた。

22:00 頃高田馬場付近を通過、先が見えてきた感じで、元気が出てきた。22:30 頃、新江古田駅で大江戸線が運行再開されたことを知り、ホッとすると共に疲れが少し出てきたが、4駅分を歩かずに済み23:00前に帰宅できた。歩行4時間30分、半難民5時間であった。

今回の地震は平日の勤務時間中であることから各事務所の対策本部は速やかに立ち上がり、 要員も充分だったと思われるが、帰宅困難者も多かつたのではないか等、訓練と違う数多くの教訓も残したのではないかと思います。

広報担当理事 加藤 基雄

## 協会からのお知らせ

### 1.東京都道路整備保全公社の移転

協会の事務局を置いております「東京都道路整備保全公社」が 5 月連休明けに小田急第一生命ビル 20Fに移転します。

2. 新規会員紹介

新井 敏男(H23.02.14、四建) 松田 研一(H23.02.14、六建) 敬称略(入会日、参集事務所)

発行人: 沼尻 孰

発 行:東京都建設防災ボランティア協会 所在地:東京都新宿区西新宿2-3-1 財団法人 東京都道路整備保全公社内

編 集:加藤 基雄、中田 勝司、丸岡 敏夫